

Alert 47号

[通巻 429 号]
2020年
5月5日発行

第2期・反天皇制運動連絡会

野次馬日誌 * 9 集会の真相 * 11 反天日誌 * 12 集会情報 * 12

太田昌国のみたび夢は夜ひらく（119）
●コロナ禍を通して見る自國中心主義と國際主義——太田昌国 * 7
マスコミじかけの天皇制（46）（壊憲天皇制・象徴天皇教國家）批判 その11 ●
「原子力非常事態宣言」・「緊急事態宣言」下の「立皇嗣の礼」延期——天野恵一 * 8

今期の Alert ●コロナ禍状況のなかで反天皇制の活動を確保しつづけよう —— * 2
反天ジャーナル ● —— なかもりけいこ、はじき豆、北 * 3
状況批評 ●（グリーンウォッชング）としてのオリンピック・パラリンピックと天皇制
——コロナウイルス状況から見えてきたもの—— 鵜飼哲 * 4
書評 ● ——私の読解報告 徐翠珍著『華僑二世徐翠珍在日 その抵抗の軌跡から見える日本の姿』
——大友深雪 * 6

ネット演劇というものがあるらしい。それはやはり、今のファシズム権力による「非常事態宣言」によって使用禁止になった劇場や、地域自警団による不要不急摘発によって公演中止に追い込まれた演劇人たちが、緊急避難的にインターネット上に表現の場を求めたもの、らしい。これは新しいメディアに身を転じ、自ら回転して時代をなぎ倒していく!、というよりは、どうも劇場封鎖が解かれたときに「また、よろしくね」と言っている様子で、まるで迫力に欠ける、ようだ。

ちなみにニッポン劇団協議会とニッポン演出家協会、ニッポン劇作家協会の革新的文化団体が音頭をとって、ファッショ政府、小ファッショ自治体、大資本企業に対して「自粛休業」保障の支援要請を申し出た、という。これは普段なら、「自立した表現者が? すごいね」と呆れてムシする愚行だけど、なんせ非常事態宣言下だ、考へ得るあらゆる手段の、遊戦的手法のひとつとして繰り出されたものかもしれない。こういう時に批判はいかん。一緒に団結しなくては、な。

その要望文の中に「〈演劇の死〉は、現代ではなにより貴重で大切な〈対話の死〉〈想像力の死〉とも言えるのです。」と泣けるセリフもある。これはもちろん「演劇」に限らず、不要で不急でしかない、人間の行為の復権のコトバである。それと同じようなセリフを、2011年3月11日以降に、ぼくたちは何度も聞いた。……「(無力の)わたしたちに、なにができるか」と。

そう、ぼくたちは「無観客演劇」をやろう。ネットを道具に使ったり、対話からいちばん遠い権力からお金を貰ったりするのではなく、「無念の死」を死んだ者たちを目の前に置いたつもりで。現下の、都会の路上で殺された者、先進国の都市が封鎖を解かれた後に、続々と情報だけが伝えられる死者たちの言葉を聞きながら。それが、過去を含む現在ただいまを生き、現在を含む未来という歴史を観客とする、リアリティある演劇の流れだと思うんだ、けど。

(池内文平)



250円

- 定期購読をお願いします（送料共年間4000円）
- 郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス
東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A 淡路町事務所気付 落合ボックス
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/mail:hanten@ten-no.net>
- 以前の情報はこちら▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

今月の
Alert

コロナ禍状況のなかで 反天皇制の活動を確保しつづけよう



昨年の徳仁即位からまる一年、昨秋の即位礼・大嘗祭からも半年が経過した。予定されていた即位関連の儀式からすると、四月一九日の立皇嗣の礼と饗宴、皇祖とされる神社への秋篠による「奉告」などを経て、一連のスケジュールは終えていたはずだ。しかし、新型肺炎を典型的な症状とするウイルス Covid-19 のパンデミックにより、立皇嗣の礼はついに時期を明記しないままの延期となり、当分は留బリとなつていて。

昨年、元号の制定のおりに、日本文学研究者の品田悦一氏が、この「令和」は、万葉集で大伴旅人が王羲之の「蘭亭集序」を参照して撰んだ「梅花歌」からとったとされているが、これに隠された大伴旅人の意図は、じつは、皇位繼承と光明皇后にまつわる争乱であり、「冤罪」とされている「長屋王の変」を想起させるためのものだと読み解いてみせ、古典理解の奥深さを知らされたものだ。偶然とはいえ、今後は男系女系はじめさまざまな展開が想定される天皇制の、ひとつの要となるはずの秋篠の立皇嗣礼が難航していることを思うと、微笑を催さずいられない。

さて、全国植樹祭は来年に延期、春の園遊会は中止となつた。皇族の出席予定の行事はいずれも中止や延期、年内に予定されていた外国訪問についても困難な状況だ。五月一日現在で、日本からの渡航者や日本人に対して入国制限措置を取つてゐる国や地域は一八四か国・地域で、さらに入国後に行動制限措置がなされるのは、そのうち六四か国・地域である。政府や外交な

どの関係者に特例がありえないわけではないだろうが、その地位に「神聖性」があるうとなからうと、いまさら「神の子」というわけにもいかない天皇や皇族たちとて、これは否定できません。五月一日には新規の「天皇メッセージ」があるかもしれませんとの観測もなされていたが、これも発するにはできなかつた。



現在進行形の感染性疫病の動静は、なおきわめて深刻だ。それにもかかわらず、病原体が蔓延している事実は明らかなの。「専門家」からのメッセージは意図的だとしか思えないほどに不明瞭で、統計数値の発表も、感染状況、発病の状況、地域などいくつもの要素がいまだに截然としている。本来はこれらに基づいているはずの公衆衛生にかかる機関からの「対策」は、医療現場をバックアップするための制度的・経済的保障を提示するものではなく、むしろ、現場の主体性を縛り、情報の操作と恣意的な統制を強く疑わせるものとなつてゐる。これに加え、政治状況がさらに混乱をきたしてゐるため

解決のめどは立たず、「瀕死」や「重要な時期」と冠つけられた一週間と同様に、「緊急事態」の一ヶ月もまた、今後、どれほど延長されるかが全く不明だ。

さらに、事態に乗じて政治家や極右活動家がヘイトをふりまき、不安を駆り立て、「自粛警報」と揶揄されるほどの「相互監視」と「相互摘発」

状況をつくりだしてゐる。社会的インフラを支えるエッセンシャルワーカーに対し、口先だけでも経済的支援などの実質のない「感謝」発言が飛び交うその片方で、病菌の蔓延と職業差別や民族差別、性的差別が結び付けられてゐる。私たちも、こうした状況に、今後もはつきりとNO!の声をあげていかなければならぬと考えている。感染症が社会や個人にもたらす断絶の重さと、これの防止の重要さを前提としたが、そのためには、基本的人権こそが重要な観点であり判断基準であることを、あくまでも強調しなければならないと考えてゐる。

そうした活動に対しても、「不要不急な活動ではないか」という声がありえないわけではないことは、もちろん意識せられてゐる。しかし、感染したひとが、感染したことをもって、事後的に、あたかも政府に従わないならずものである、あつたかのとき、社会的裁断を下される社会では、「病」は隠蔽されざるを得ない。だからこそ「三密」ならぬ権力の密議や密約をも問題とし、惨禍や篡奪を阻止しなければならないのだ。

私たちの周囲では、会議や集会の方法を含めて、明らかにこれまでと違う活動形態を目指す模索も開始されている。こうした方向をエンパワーする試みに、反天皇制運動の側からも加わつていただきたいと思う。

(蝙蝠)

緊急事態宣言のもうもの

緊急事態宣言が「コロナ対策の「魔法の杖ではない（小笠原みどりさん言）」ことを実感する日々を送っている。外出自粛・休業要請とは名ばかりで私権を制限された事実上の戒厳令下」になっている。要請は「命」と対比させた強制となり、それに反するものを取り締まるのはお上だけでなく市民による「自粛ボリス」が力を奮っている。あるいは戦時の隣組で相互通報の危うい匂いがする。

自粛を強要するだけで保障もせす責任も取らず、誰の命も守らない政権はコロナ禍のドサクサに紛れて、また政治を私物化する法案を出した。四月一六日、国家公務員定年延長法案に検察官の定年延長を含む関連法案が審議入りしている。東京高検黒川弘務検事長の定年を延長して検事総長のポストに付けるための法案だ。行政機関ではない独立性を持つ検察に政治が人事介入されることになり容認できないと追及されているが問題はそれだけに留まらないといふ。法務省の枢要ポストが検察庁の検事ですべて占められているというのだ。

省庁のトップは本来事務次官だが法務省では検事総長の方が高い地位にあるといふ。人事介入が可能になると独立性が失われた政権の意向を忖度する検察となりカジノ汚職事件や桜を見る会の追及が闇の中に消えてしまいそうだ。

（なかもりけい）

コロナ時代の天皇

「コロナで大騒ぎの四月一〇日、天皇と皇后に」対し、政府のコロナ対策専門家会議の尾身茂が「（）進講」を行い、天皇が「感染症拡大は人類にとって大きな試練。今後、皆がなお一層心を一つにして力を合わせ、難しい状況を乗り越えていく」とを心から願っています」と述べたと報じられた。

「専門家会議ってそんなにヒマなのか？」というのが直率な感想だが、他方、天皇や宮内庁も苦心しているのかもしれない。英国のエリザベス女王は特別大サービスで演説し、何とか存在感をアピールしようとしている（チャールズが感染したのはトホホだが）。それに対し、天皇は四月一九日に予定していた「立皇嗣の礼」を延期するなど（）のまま中止している（見せ場が）こととく失われてしまう。上皇は被災地などに出かけて「祈る」ことで親近感をアップさせてきたわけだが、いま天皇が病院を訪問するなんてことは到底できない。そう考えると「（）進講」はコロナ時代に天皇のプレゼンスを維持するための試行錯誤なのだろう。ただ、このまま終わるとは思えない。最先端のテクノロジーを使った、数年前の天皇の退位メッセージのようなんでもないやつを出してくる可能性がある。引き続

き注意していい。

（ほじき豆）

不要不急の天皇行事

（）へちでとつている新聞の五月一日の朝刊は、一面トップが「緊急事態 全国で延長へ」その下が、すつかり見慣れてしまったマスク姿の徳仁・雅子の写真が添えられた「コロナ・両陛下の活動影響」という記事だった。昨年はまだ、五月一日とはそもそもな日の日であったのかということが書かれていたようになに思つが、今年の五月一日は、あたりまえのように天皇即位一年の記念の日となつていた。せつかくなので、ぼくは都心で開かれた小さなメーテーの（）モニ出かけた。

それにしても新型コロナの感染拡大状況は、「代替わり」後、いよいよ活動を本格化させようとしていた新天皇夫婦をはじめとする皇族の動きにも影響を及ぼしている。最初は即位後初の天皇誕生日の一般参賀の取りやめ。その後天皇・皇族関連の行事の中止や延期が相次いだ。2020東京五輪の延期や3.11の追悼式典・植樹祭や高校総体の中止も大きいが、「純粹」な皇室行事である秋篠宮の「立皇嗣の礼」まで延期されたのは正直意外だつたけど。

もちろん、それが「玉体」に万一事があつてはという彼らの危機管理意識に発していることは間違いないが、それが明らかにしたのは天皇行事はおしなべて不要不急、いや単に不要なのだという事実だった。「國家の尊厳」のために無駄金を使ってる場合か。

（北）

状況

批判

思想・状況・批判

鶴飼哲

〈グリーンウォッキング〉としてのオリンピック・パラリンピックと天皇制

——コロナウイルス状況から見えてきたもの

一年前の二〇一九年四月末は天皇の代替わり過程のさなかにあった。四月三〇日に明仁が退位、翌日徳仁の即位式が行われた。それに先立つ四月二三日、天皇と皇后は昭和天皇の墓所である東京都八王子市の武蔵陵を訪れた。そのとき何が起きたか、私が知ったのは半年以上後のことだった。

この事態を報じた東京新聞（二月八日付）の記事に付された写真のかで、天皇夫妻が乗った車に向けて、沿道を埋め尽くした子供たちが日の丸の小旗を振っている。記事は当時の自民党幹事長代行、現在の文部科学大臣である萩生田光一のブログの引用で始まっていた。

「日の丸の小旗四千本はたちまち無くなり、沿道の小学校、幼稚園、保育園の子供たちは手作りの小旗で集まってくれました。」（四月一六日）

あたかも子供たちが自発的に歓迎準備をしたかのようないびりだが、通常の火曜日のこの日、子供たちが唇の沿道にいたのは、この行事がオリンピック・パラリンピック教育の一環として行われたためだ。八王子市教育委員会はあくまで各学校に情報を提供しただけ、校長が独自に判断して行つた「教育的活動」であり、決して「勧員」ではないといふ公式見解である。教育委員会指導主事の佐生秀之はこう述べたといふ。

「小学校」六年の学習指導要領には、国事行為などを取り上げ天皇への理解と敬愛の念を深めるとあるし、オリ・パラ教育で育てる五つの資質に『日本人としての自覚と誇りを持つ』があり、それを養うのに合致する。校長の判断はまったく問題ない。沿道に並び旗を振ることが問題だとする人もいるんですねとしか言いようがない。」

日本におけるオリ・パラと天皇制の分かれ難いながらを、これだけだけすけに表現した発言も珍しい。六四年大会を小学生のときに経験した筆者には、第一次安倍政権による教育基本法改悪の帰結が、このような形で露骨に具現化している様を目の当たりにした衝撃は大きかった。

二〇一六年八月の明仁による「生前退位を求めるメッセージ」以降、オリンピック・パラリンピックと天皇制の関係を考え直す機会はたびたびあつた。オリンピック競技の復興がフランスの一貴族の発案によるもので、第一回大会が当時王政だったギリシャで開催されて以来、国際オリンピック委員会（IOC）は各国の王族や貴族のサロン紛いの場であり続けてきた。元皇族の息子であり明治天皇の曾孫に当たる元五輪アスリートの竹田恒和が、長年日本オリンピック委員会（JOC）の会長を務め IOC の委員としても重用されてきた背景にはこうした事情がある。東京招致決定時にブエノスアイレスの一〇〇総会でスピーチをした高円宮久子の役割も含め、皇室・皇族とオリンピック・パラリンピックの関係が、天皇が大会名誉総裁として開会宣言を行うという儀礼的側面に限定されない広がりを持つことでも確認した。しかし八王子の事態には、このような認識をさらに超える内容が含まれている。父の墓所に参拝する退位する天皇の歓迎という行事には、オリ・パラ教育の名目で参加を強制された子供たちに、「昭和」「平成」「令和」三代の連続性を、五輪理念と一緒に「めでたいこと」として刷り込む意図を想定しなければならない。

かつて丸山真男は『歴史意識の「古層』（一九七一）で、古代以来の日本における歴史的思考を特徴づける「執拗低音」を「つぎつぎとなりゆくいきおい」という言葉で表した。戦後のいわゆる象徴天皇制のもとで、六四年の東京五輪は、皇太子（前天皇）の結婚（一九五九年）と明治維新百年（一九六八年）をつなぐ祝賀の政治の一環だった。二〇二〇年大会の場合、招致の段階では天皇家の代替わりはまだ日程に上っていなかったにもかかわらず、明仁の生前退位によって徳仁の即位、元号の変更から五輪に至るスケジュールが、おのずからより緊密な時間的継続のなかにセットされることになった。そして安倍政権はここ数年、この「慶事」の連続に

改憲のための国民投票を押し込むことを画策してきた。いつわりの「復興五輪」がほんものの「改憲五輪」になる流れは、「惨事」を「祝祭」に、「追悼」を「祝賀」に、シームレスに連繋することを可能にする天皇制特有の媒介作用なしには「作為」されえない。

しかしコロナウイルスの世界的な感染拡大は、破壊的な不協和音のように、「執拗低音」の持続を断ち切り、このシナリオを崩壊させた。もっとも安倍晋三首相は、五輪の延期時期を一年後に設定した理由を問われ、「二年後といつた延期となれば二〇二〇年東京大会はモメンタム（いきおい）が失われ、別の大会のようになってしまって懸念があった」と答弁している（三月一七日、参議院予算委員会）。そして今度はこの新たな「惨事」を梃子に、「緊急事態条項」導入による改憲の可能性を探り出している。

四月末になって森喜朗組織委員会会長は、五輪の再延期はなく来年できなければ中止と言い出しており、国、都、一〇〇のあいだで追加予算の分担が未決であることも明らかになつた。新型肺炎の終息が見通せないなか、五輪中止を求める声もよつやく広がりつつある。しかしたとえ中止になつたとしても、明治公園から追い立てられた人々や霞ヶ丘団地から移住を強いたされた人々に、五輪招致以前の生活が戻つてくることはない。

私たちはこれまで、オリンピック・パラリンピックと天皇制の関係を、否応なく切迫した政治日程に即して検討してきた。明治神宮創建一〇〇周年とも重なつていた二〇二〇年大会が「幻」となつた今、いつたん立ち止まって考えておかなければならぬのは、近代天皇制と近代オリンピックは、このような共犯性を深めていくために不可欠なはずの、どんな共通の歴史的性質を持つているのかということではないだろうか。ここでは「グリーンウォッシング」という言葉を最初の手がかりにしたい。

組織委員会のホームページを見ると、今回の東京五輪は東日本大震災からの「復興五輪」であるばかりでなく、エコロジカルな「環境五輪」でもあると主張されている。大会中の再生可能エネルギーによる電力供給や水素エネルギーの活用、使い捨てのプラスチックを素材とした表彰台など八項目の取り組みが挙げられているが、当然のことながら原発に関する言及は一言もない。現実の復興を阻害しつつそれに復興の「イメージ」を置き換える東京五輪の本質そのものを隠蔽する、言わば「隠蔽の隠蔽」として

の「グリーンウォッシング」である。

しかし、日本で環境保護の装いによって歴史的現実を覆い隠す「作為」と言えば、すでに天皇制がその先鞭をつけてきたのではなかつたか？ 四月二九日は昭和天皇の誕生日だが、彼の死後「緑の日」へと国の祭日としての名称が変更された（現在は「昭和の日」）。戦争責任・植民地支配責任がいまなお問われている裕仁の歴史的実像を覆い隠す、文字どおりの「グリーンウォッシング」が行われたわけだ。近年、明仁が原発反対だという憶測が広がつたり、石牟礼道子と皇后美智子の往復書簡が話題になるなど、日本の産業構造の根本的な転換とは無縁のところで、エコロジーの「イメージ」が天皇制と親和的に「作為」される事例が（「おのずから」）統いているが、その出発点が「緑の日」の制定にあつたことは自明である。昨年の天皇代替わりの日程も、戦前は「天長節」だったこの記念日の記憶との連續性のうえに設定されたものだ。

コロナウイルスをはじめ世紀転換期以降次第に頻繁に出現するようになった未知の感染症は、開発資本主義の世界的拡張による森林破壊、気候変動、戦争等の結果、野生動物の生息域が急速に狭隘化し、従来接点のなかつた人間を含む動物種が遭遇することから起きてきた現象である。劇的に明らかになつたいわゆる「先進」諸国の医療体制の崩壊は同じ歴史過程のもうひとつ側面であり、動物種のあいだの「自然的距離」を破壊したばかりに、いまや人間は「社会的距離」を守らなければ生きていけなくなつたのだ。

米国の科学ジャーナリストのソニア・シャーが主張するように、パンデミックに対する真の応答は眞のエコロジーをおいてほかにない。「環境五輪」や「緑の天皇制」などといった「スペクタクル」にこの期に及んで惑わされていては、この緊急の課題に正しく向き合つことはできない。天皇制の延命のための「イメージ」戦略もこの局面で厳しい変容を迫られるだろうが、その新たな「作為」を逐次暴露することがこれから反天皇制運動の重要な課題となるだろう。オリンピックの「魔法」はいまや急速に解け始めている。天皇制の「魔法」からの日本の民衆の解放も、遠くないことを信じよう。



——私的読解報告—— 徐翠珍著『ハ華僑一世徐翠珍在日 その抵抗の軌跡から見える日本の姿』

大友深雪 「日の丸と君が代」の法制化と強制に反対する神奈川の会

「民族」を「主体的人間」と読み替えさせてくれた
徐翠珍さん)

「口ナ禍の四月中旬、オリンピックお」とわリン
ク月例会直後の帰り支度中に「これ、読んでみませ
んか。華僑の方が書かれたものです」と天野さんか
ら紹介され、その数日後「書評書いてみませんか」
と桜井さんから誘われたのが、この本でした。以前
から「奪われし民族性の奪還」「民族の誇り」「民族
教育」に違和感を覚え、「在日」の方々とのつきあ
い方にも戸惑い続けてきたことへの「整理」を迫られると考え、おそるおそる読み始めたら、徐翠珍さ
んに予想外の親近感を覚えたのです。「まぎりなり
にも生きていた『憲法九条』の下で、一国籍がなん
であれこの社会の主体者として一七〇数年生きてき
た」という徐さんと同じ一九四七年生まれの自分が
神奈川でのささやかな「抑圧に対する抵抗」を放り
出して、彼女の西成での「闘い」に紛れ込んだよう
な錯覚に囚われるほど、彼女の闘争課題・その時々
のスタンスに共感しながら、かつ私好みの色に花咲
く各章の表紙（徐さんのスケッチ）にも愛おしさを
覚えつつ、読み進めた結果が以下の「私的読解」報
告になります。

ツに持ち、迫害を受けようが帰るところもない」日
本人（五世や六世）に対する「嫌中」ヘイトが民衆
の中にも根を張つそうな気配に戸惑いと脅威を感
じ、選挙権すらないがアジア人としてある「もの言
う権利」を行使して「憲法の条捨てさせない」と叫
びたいという立ち位置が表明されています。

第二章「国籍条項」では、上海女工時代に培われ
た「自立」と「民族の誇り」を感性の基軸とした
母と仕立て職人の父との間に神戸・加納町の中規
模環境に生まれ育ち、民族学校九年間の高額な授業料
を払いきれず半免費児童として味わった「貧乏っ
れ」の経験は辛かったものの、その後幼稚園教諭補
助をしながら短大初等教育科一部卒業までの五年間
も民族差別の実感なく過ごした神戸時代をまず振り
返ります。一九七〇年結婚で移った西成で初めて在
日韓国・朝鮮人・中国人への民族差別を知り、中国
名不使用を条件に採用された幼稚園から、その公立
化・大阪市移管に伴い国籍条項による解雇通告をさ
れ、「在日中国人保育労働者としての私の職場を返
せ」の闘いの中で採用要綱の国籍条項の不当性を認
めさせ一九七三年に現職復帰・在日の労働権・生存
権保障の端緒作りを果たし、その後健常児と障害児
が共に学び会える学童保育所「芽」を開設した西成

されかねない心配で締めくくっています。

第三章「在日中国人—華僑の渡航史」では、侵略
国日本に居住する「敵国人」としての戦中と「平和
憲法」から除外された戦後に、「在日」がなめ尽く
してきた辛酸が語られます。

第四章「指紋押捺拒否」で問うたこと」では、
韓宗碩さんによる拒否の五年後の一九八五年、自分
の在日中国人初の押捺拒否で始まった反外登法運動
廷・八九年の「大赦拒否訴訟」を通して訴えたのは、
日本の大東亜共栄構想の中、異民族支配と資源・
労働力強奪の有効な手段として生み出された『満州
指紋』の延長上にある指紋押捺制度は、民族問題に
止まらず、日本社会の秩序と安寧にとって田障り、
厄介なものを作りだすための鎖であり、この鎖から
の解放」だったと。

〈私的読解のしめくくり

徐翠珍さんへの共感宣言

侵略国日本に抗して闘つてきた中國民衆と在日の
『人間回復』の闘いから学び、日本にまつろわぬ日
本の主体的住民として、天皇制と軍備の廃止をめざ
し続けます。

〈徐翠珍さんの抵抗の軌跡—その私的概観の試み〉

第一章「私の原点—闘いの軌跡」では、国家間の
憎悪を生み、民衆を国内外に／国内外で分断してき
た戦争をまたもや準備している日本、「中国籍をルー

○徐翠珍著『華僑一世徐翠珍在日』

——その抵抗の軌跡から見える日本の姿

東方出版／二〇一〇／一五〇〇円＋税

太田図国 の 夢は夜ひらく 119

みたび

四月一九日付けAFP電が目にに入った。米国のジョンズ・ホプキンス大学の発表によれば、米国におけるコロナウイルス禍による死者の数は五万八三六五人となり、ベトナム戦争における死者の数を超えたというのだ。米国の国立公文書館の数字に基づけば、ベトナムでの戦闘及び事故による米国兵士の死者数は五万八二〇人である。ベトナム戦争は、短く見ても、一九六五年一月七日が始まった米軍による北爆（北ベトナム爆撃）から、七五年四月三〇日の解放戦線軍の南ベトナム・サイゴン解放まで、一〇年間続いた。流行が始まつてわずか三ヵ月ほどしか経っていないコロナウイルスによる死者数が、一〇年間続いた戦争における死者の数を上回ったのだから、確かに驚くべきことではある。だが、米国での大多数の人びとの関心はここで止まるだろう。

ベトナム戦争では、米国はある狭いインドシナ半島に最大時には五四四万人もの兵士を派兵し、北ベトナムを爆撃し、解放戦線に荷担する南ベトナムの人びとと山野の上に大量のナパーム弾を降らせたのだから、ベトナム側にも膨大な死者が出ているに違いない。だが、二一世紀に入つてからの「反テロ戦争」でも、アフガニスタンやイラクにおける米国兵士の死者数の報道は克明になされても、戦場となつてゐる現地の死者の実態にも数にもまったく関心を示さないのが、米国政府・

軍・メテイアとそれは誘導される大方の米国人の在り方だった。これは「大国」では（ありふれた）光景だ。他ならぬ日本が行なつた対アジア侵略戦争による、国内と外における死者の数え方を思い返してみれば、これは取りも直さず、私たちの足もとを照りし出す問題である。

今回私が読んだのは AFP 電だから、まだしも「続き」があった。ハノイ当局の公式統計に基づいて、北ベトナム軍兵士と南ベトナム解放民族戦線ゲリラ兵の死者が一二〇万人、民間人の死者が二〇〇～三〇〇万人と推定されることが書き加えられていたからである。「ロナ禍とベトナム戦争における「米国人」の死者数だけを取り上げて比較するという内向きの発想の犯罪性と限界は、こういう形で露わになる。

この三ヶ月間続いている「コロナ禍一色報道の中にも当然にも、同じ問題が見られる。欧米および中国のとうな大国の状況に偏重した報道の渦の中から、「小国から届けられる小さなニュースに注目すること」で見えてくる問題を探り当てること、これが肝要である。「井界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）戦略投資効果局長」國井修は、途上国では新型コロナ以上の威力を持つ病原体が多く流行し、三大感染症で一日約七千人が死亡していても、世界はさほど真剣な取り組みをしてこなかつた、主要七カ国が当事



者にならぬといふんな反応にならぬのか、じぶん静に分析してゐる（（日刊）五日付け朝日新聞）。彼の考えの根底には「感染症」の国境はない」といふ、「今後、感染症禦は、自然や地震と同じように隨時やつてくるもの」だといつて確信が据えられてゐる。新興感染症の多くは途上国で発生するが、地球全体を見れば健康格差があるのはおかしいといふ人道的な立場からこつてゆく。それがグローバル化によつて容易に先進国に広がる」とを防ぐといつて「功利的な」立場からのこといや、先進国は途上国の感染症対策を援助すべしのだ、ヒューマンウェルフェアの立場からいふと、最も注目すべきも活動を「小国」キューバに見ねるとがである。キューバの医療水準の高さはよく知られてゐるが、今回も「ローラー禦に拘つむイタリア・ロンバルディア州をはじめ、医療体制が乱しい中米やカリブ海の小さな諸国に多数の医師と看護師を派遣してゐる。生命工学分野でもキューバは七〇年代から米国やフィンランドの研究者と共同研究を重ね、インターフェロへの開発に成功し、それはドング熱、B型骨髄炎、エイズなどの克服に有効なことが証明されてゐる。米国が改めて課してゐる経済制裁のために資材不足が続く中で小国が実践する国際主義的な連帯の在り方は、「国境なき感染症」とたたかう世界に示唆するといふのが多い。キューバ政府の内政路線にはいくつもの疑問と批判を持つ筆者だが、しま審問にかけられてゐるのは新自由主義的経済原理そのものだと想へばれば、六〇年有余に及ぶキューバ革命の「試行錯誤」から学び取るべも国際的な視点の広がりと深さを知ればわからむだけだ。（事実の抽出は We are Cuba! Press, 2020. わざわざなた。）

マスコミの
天皇制 46

「原子力非常事態宣言」・「緊急事態宣言」下の 「立皇嗣の礼」延期

——〈壊憲天皇制・象徴天皇教国家〉批判 その11

一 恵野 天



四月七日、新型コロナ特措法（改正新型インフルエンザ等対策特別措置法）に基づく「緊急事態宣言」が安倍晋三首相によって発令された。

この「特措法」による「宣言」は、「(1)国民の生命及び健康に著しく重大な被害を与えるおそれがある」「(2)全国的かつ急速なまん延により国民生活及び国経済に甚大な影響を及ぼし、又はそのおそれがある」の二つの条件が満たされれば出せるとされている。

市中の感染者数の拡大と死者のカウントがアップしている状況が、東京オリンピック延期が決定した三月十四日以後、PCR検査をしぼつて、感染者を隠し続ける（オリンピックの「完全実施」のために人命などどうでもよしの）政策を取り続けた安倍首相の、明白なコロナ活用への方針転換によって、政府一マスコミによって、日々クローズアップされだし、「緊急事態宣言」を出せ、という人々の声は政権に批判的な人も大きく動きこんで組織された。

しかし、この「宣言」は首相の判断を絶対的根拠にし、人々のあらゆる人権に國家（公権力）が制限をかけることを可能にするものであるから、そこからの危険なものであることを、私たちは忘れるわけにはいかない。

正確な感染者数は、今でも検査自体が重症にならなければ受けられないといった、とんでもない事態であり続いている事実に端的に示されているように、本当のところは政府や都のインチキな公表数以

外は知るすべはないのである。権力によると情報（マスコミ）統制は、この「宣言」によってより正当化されているのだ。

今進んでいるのは、状況の絶望的悪化をつくりだした無責任政権による情報統制の強化であり、感染実態を客観的に明らかにする」とすらせず、「命がほしければ俺のいわことを聞け」という恫喝政治である。

コロナウイルスの感染拡大をストップさせるための努力を私たち自身もしなければならないことは当然である（大集会が中止においてしまれ、場所を消毒し、マスクをして距離をとった会議の数を少なくするには致し方ない「自粛」である）。命あっての物種》は誰でも同じだ。

ただ、まともな経済保障もなにもしないまま、ひたすら営業ストップを呼びかけ続けているこの政権への批判を忘れて、恐怖に縮み上がっているわけにはいかないのだ。

みんなマスクをしている。遠くから取りまいている私服刑事のマスクと参加者のマスク。マスクだけのバラバラ集会。奇妙な風景であった。

丸之内駅前にはオリンピック憲章など無視して一年延期を決めた東京オリンピック・パラリンピックの「あと何日・何時間」というカウントダウンを告げる時刻塔が時をきさんでいた。人々の命を危機にさらした野望はストップしていない。「放射能はアンドー・コントロールされている」とのオリンピック招致のための安倍首相の「大ボラ」が「コロナ・ウイルスはコントロールしている」という愚かですぐ破綻した政治演出のスタートラインだった。オリンピックも「代替わり」天皇儀礼も、この政権の改憲のための大きな「祝賀ナショナリズム」政治であった。それらは私たちにとっては、危険極まりない「不要」のかたまりである。「延期」ではない、いわば

東京に発せられた宣言は、四月一六日には全国に拡大された。「原子力非常事態宣言」と「緊急事態宣言」という、二重の危機の宣言状況下の四月一九日の、今回の天皇「代替わり」のラストの儀式「立皇嗣の礼」のオリンピックについての延期は、四月一日の閣議で決定された。秋篠宮が次の天皇になることを内外に宣言する、支配者たちにとつては重要な儀式である。もちろん、私たちにとっては、その費用だけで四〇〇〇万円といつまつたく不要なセレモニーである。私たち「反天」の実行委の有志は、延期された一九日の「立皇嗣の礼」の日の東京丸之内駆前抗議行動を、なんとか実現した。「延期でなく、もうやめてしまえ」の声が広々とした空間に飛び交った。電車などの乗り物は避け、遠方から自転車のペダルをこいで何時間もかけて参加した人、九四歳の参加者もいた。

一四日の閣議で決定された。秋篠宮が次の天皇になることを内外に宣言する、支配者たちにとつては重要な儀式である。もちろん、私たちにとっては、その費用だけで四〇〇〇万円といつまつたく不要なセレモニーである。私たち「反天」の実行委の有志は、延期された一九日の「立皇嗣の礼」の日の東京丸之内駆前抗議行動を、なんとか実現した。「延期でなく、もうやめてしまえ」の声が広々とした空間に飛び交った。電車などの乗り物は避け、遠方から自転車のペダルをこいで何時間もかけて参加した人、九四歳の参加者もいた。

みんなマスクをしている。遠くから取りまいている私服刑事のマスクと参加者のマスク。マスクだけのバラバラ集会。奇妙な風景であった。

丸之内駅前にはオリンピック憲章など無視して一年延期を決めた東京オリンピック・パラリンピックの「あと何日・何時間」というカウントダウンを告げる時刻塔が時をきさんでいた。人々の命を危機にさらした野望はストップしていない。「放射能はアンドー・コントロールされている」とのオリンピック招致のための安倍首相の「大ボラ」が「コロナ・ウイルスはコントロールしている」という愚かですぐ破綻した政治演出のスタートラインだった。オリンピックも「代替わり」天皇儀礼も、この政権の改憲のための大きな「祝賀ナショナリズム」政治であつた。それらは私たちにとっては、危険極まりない「不要」のかたまりである。「延期」ではない、いわば

いのだ。もちろん原発も。（四月一七日）

一時次思日誌

4月1日～4月30日

【4月1日】

杉子◆故寛仁の長女が、千葉工業大の特別教授に就任。大学の地球学研究センター主席研究員を兼ね、京都市立芸術大学客員教授や、トル「の考古学研究を支援する三笠宮記念財団の総裁も務めている。

久子◆故高円宮の妻が、日本ライフル射撃協会の名誉総裁に就任。

植樹祭◆新型コロナウイルスの感染拡大を受け、5月31日に徳仁、雅子が参列し島根県大田市で行われる予定の第71回全国植樹祭について、島根県などが1年延期を検討。

宮内庁人事◆東大病院循環器内科の杉田純一が上皇侍医に、広島県地域政策局長の西野博之が皇嗣職宮務官に、管理課長の石原秀樹が京都事務所長に就任。

「令和」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、元号「令和」が発表から1年となつたのを受け、「もう1年が過ぎたかとの思いだ。多くの国民から好意的に受け入れられ、ほっとしている」。元号 자체について「1400年近い歴史を有し、国民の心理的・一体感の支えにもなつてゐる」「今後とも令和が日本人の生活の中に深く根差すことを願つ」。

【4月3日】

秋篠宮、紀子◆宮内庁が、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、19日の「立皇嗣の礼」の関連行事として、4月下旬か

ら予定していた伊勢神宮や、神武天皇の陵などへの参拝を延期。2人は23日に伊勢神宮、27日に神武天皇陵、5月8日に昭和天皇陵を参拝する予定だったが、最終的に秋篠宮が延期の判断。

英女王◆英王室が、新型コロナウイルスの感染拡大に関するエリザベス女王の「国民」向け演説を5月にテレビとラジオで放送すると明らかに。

【4月5日】

「宸翰」◆私設図書館「羽田八幡宮文庫」で保管され、和歌などが記された書が、戦国時代～江戸時代初期に後奈良天皇と後陽成天皇が自ら書いた文書「宸翰」だったことが、豊橋市図書館の調査で分かった。

【4月6日】

「宸翰」◆私設図書館「羽田八幡宮文庫」で保管され、和歌などが記された書が、戦国時代～江戸時代初期に後奈良天皇と後陽成天皇が自ら書いた文書「宸翰」だったことが、豊橋市図書館の調査で分かった。

【4月9日】

「立皇嗣の礼」◆政府が、19日の「立皇嗣の礼」について、新型コロナウイルス特措法に基づく緊急事態宣言の発令後も予定通り実施する方針を固めたと、政府高官が明らかに。

【4月10日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」の在り方について、再検討。

【4月11日】

徳仁、雅子◆赤坂御所で、新型コロナウイルスの感染状況などについて、政府の専門家会議副座長の尾身茂・地域医療機能推進機構理事長から進講を受ける。

【4月12日】

秋篠宮、紀子◆秋篠宮、紀子が福井市で5月16日に開かれる第3回全国「みどりの愛護」のつどいへの出席を取りやめ、つどいは出席者の規模を縮小、約50人の県内関係者だけが出席。

【4月13日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月14日】

徳仁◆皇居内の生物学研究所の隣にある苗代に、うるち米の「ホンマサリ」と、もち米の「マンゲツモチ」の種もみをまく。

【4月15日】

「立皇嗣の礼」◆政府が持つ回り閣議で、正式決定。秋ごろを軸に検討を進める。

【4月16日】

「立皇嗣の礼」終了後に本格検討を始める予定だったとして、菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

京都御所の参観を8日から当面の間休止。京都仙洞御所、桂離宮、修学院離宮でも参観を取りやめ、参観のための事前申請を予定していた「伊勢神宮奉納全国花火大会」を中止。

【4月17日】

伊勢神宮◆三重県伊勢市が、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、7月に開催

旧日本軍の特攻隊員らの慰霊祭が、鹿児島県南さつま市の万世特攻平和祈念館で開かれる予定だった第71回全国植樹祭を開かれる予定だったが、最終的に「春の園遊会」に合わせた「斎参拝を見送る」。

靖国神社に参拝する国会議員の会」(会長・尾辻秀久元参院副議長)が、東京・九段北の靖国神社の春季例大祭(21～22日)に合わせた「斎参拝を見送る」。

【4月18日】

英女王◆英王室が、新型コロナウイルスの感染拡大に関するエリザベス女王の「国民」向け演説を5月にテレビとラジオで放送すると明らかに。

【4月19日】

「信任状奉呈式」◆新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け、宮内庁が、新任の駐日外国大使が持参した本國からの信任状を徳仁が受け取る9日の「信任状奉呈式」を延期。

【4月20日】

「春の園遊会」◆5月末に予定されていた「春の園遊会」が、島根県南さつま市の万世特攻平和祈念館で開かれる予定だった第71回全国植樹祭を開かれる予定だったが、最終的に「斎参拝を見送る」。

【4月21日】

特攻隊員慰霊祭◆太平洋戦争で死亡した

島根県南さつま市の万世特攻平和祈念館で開かれる予定だった第71回全国植樹祭を開かれる予定だったが、最終的に「斎参拝を見送る」。

【4月22日】

靖国参拝◆超党派の議員連盟「みんなで靖国参拝」が、東京・九段北の靖国神社に参拝する国会議員の会」(会長・尾辻秀久元参院副議長)が、東京・九段北の靖国神社の春季例大祭(21～22日)に合わせた「斎参拝を見送る」。

【4月23日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、延期の方向で調整。

【4月24日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月25日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月26日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月27日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月28日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月29日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月30日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月31日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月32日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月33日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月34日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月35日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月36日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月37日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月38日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月39日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月40日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月41日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月42日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月43日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月44日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月45日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月46日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月47日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月48日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月49日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月50日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月51日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月52日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月53日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月54日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月55日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月56日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月57日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月58日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月59日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月60日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月61日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月62日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月63日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月64日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月65日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月66日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月67日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月68日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月69日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月70日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月71日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月72日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月73日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月74日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月75日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月76日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月77日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月78日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月79日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月80日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月81日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月82日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月83日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月84日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月85日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月86日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月87日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月88日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月89日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月90日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月91日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月92日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月93日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月94日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月95日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月96日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月97日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月98日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月99日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月100日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月101日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月102日】

「立皇嗣の礼」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、「立皇嗣の礼」後に議論をスター

【4月103日】

「立皇嗣の礼」

鈴木康裕・医務技監から新型コロナウイルスに関する進講を受ける。

【戦没者挙式】◆厚生労働省が、第2次

大戦中に海外などで死亡した身元不明の戦没者を慰靈するため、5月に開催予定だった挙式を中止。新型コロナウイルスの感染拡大を受けた措置で、悪天候で取りやめとなつた1967年以来、2回目の中止となり、前年は遺族約250人ほどのほか、眞子や菅義偉・官房長官が参列したと報道。

【4月19日】

英女王◆英メディアが、エリザベス英女王が21日の9歳の誕生日に祝砲を撃たないよう求めた。従来通り祝うのは「適切ではない」と感じ、特別なことをしないよう指示。

【戦没者】追悼式◆「終戦」後、フィリピンの日本人収容所で死亡した旧日本兵や引き揚げの途中で命を落とした民間人ら計約6500人の遺骨が埋葬されている長崎県佐世保市江上町の釜墓地で、追悼式が開かれる。規模を縮小し、参列者を主催者関係者ら40人に絞る。

【4月20日】

天皇一家◆政府による緊急事態宣言発令を受け、天皇一家が移り住む予定の皇居・旧吹上仙洞御所の改修工事などが中断。秋篠宮邸の改修や、皇居・東御苑の三の丸尚蔵館の整備工事も止まつている。

【お言葉】◆新型コロナウイルスの感染拡大を受け、海外で英国のエリザベス女王が「国民」に向けた「デオミッセー」を相次いで公表している一方、徳仁は

2月の誕生日の記者会見で「早期に収まることを願つております」と述べたが、その後、緊急事態宣言の対象地域が全国に広がり、識者から「国難の今こそ、國民に肉声を届けてほしい」との声も上がったと報道。

英王室◆エリザベス英女王の夫で、2017年に王室の「公務」を引退したフィリップ殿下が、新型コロナウイルスに対応する医療従事者らを称賛する声明を発表。王室がツイッターなどで公開。

【4月19日】
英女王◆エリザベス英女王の夫で、2017年に王室の「公務」を引退したフィリップ殿下が、新型コロナウイルスに対応する医療従事者らを称賛する声明を発表。王室がツイッターなどで公開。

【4月19日】
靖国参拝◆衛藤晟一・沖縄北方担当相が記者団に「毎年お参りしてきたが、今は遠慮する」。奉納を考えていない。

【4月21日】
英女王◆英国のエリザベス女王が、94歳の誕生日を迎えた。

靖国問題◆安倍晋三首相が、東京・九段北の靖国神社で始まった春季例大祭に合わせて「内閣総理大臣 安倍晋三」名で「真榊」と呼ばれる供物を奉納。高市早苗・総務相、加藤勝信・厚生労働相が真榊を奉納。安倍政権の閣僚や国会議員の参拝は確認されなかつた。

【4月22日】

内奏】◆安倍晋三首相が、皇居で「内奏」。靖国参拝◆安倍晋三首相と全閣僚が、東京・九段北の靖国神社で21、22両日に開かれた春季例大祭に合わせた参拝をしなかつた。日本遺族会会长の水落敏栄・自民党院議員が参拝。記者団に「遺族会会長として来てきた」。

【4月23日】

皇居外苑◆環境省の皇居外苑管理事務所

が、皇居外周を走るマラソンの団体利用受け付けを一時休止。

【4月24日】

元号法◆1979年の当田、「一世一元」制を定めた元号法案が衆院本会議で、賛成多数で可決され、参院に送付されたと報道。

【4月26日】
皇室◆共同通信社が、郵送方式で実施した皇室に関する世論調査の結果をまとめた。

【4月26日】
靖国参拝◆衛藤晟一・沖縄北方担当相が

に對し、マスク着用のほか、通行人やランナー同士の間隔を確保するよう呼び掛けた。

伊勢神宮◆伊勢市や志摩市など4市町の首長が伊勢市役所で記者会見し、各市町の訪問自粛を共同でアピール。4月29日から当面の間、伊勢神宮外宮・内宮の参拝者用駐車場と、両宮の神楽殿を全て閉鎖。

家の宮本輝、北海道アイヌ協会理事長の加藤志に旭日小綬章を贈り、受章者は旭日章1012人、瑞宝章3169人の計4181人で、このうち女性は3年の

制度「改正」以降最多となる412人と全体の9.9%を占め、民間人は1944人で46.5%だったと報道。

**明仁◆退位から一年を迎えた。
改元◆菅義偉・官房長官が記者会見で、
5月1日で「令和」改元から一年を迎えることについて「この1年で新元号令和**

が国民の皆さんに受け入れていた
だらうるやうで、本当に良かつた」。

漢文の「聖火リレー」

3・28—29 福島行動

中止となつた「ビレッジ発の『聖火』リレーの福島コースは三月一八日に郡山でゴールする予定だった。リレーは中止になつたか抗議の街頭スタンディングは行つた。郡山駅頭で地元の大河原さきさん、黒田節子さん、蛇石郁子市議らが訴えるアピール。「アンダーコントロール」という国際的ペテンで原発被災者らを切り捨てながら、「復興五輪」を演出して被害者らの悲劇を一大スポーツショービジネスのために利用しつゝぞうとする意味での「完全な形」。こんなオリパラは絶対ムリ。駅頭スタンディング後は「聖火リレー」と五輪災害」トークリレー集会。

鵜飼哲さんは五輪災害下の社会状況を書き連ねた『まつろわぬ者たちの祭り』（インパクト出版会）を上梓したばかり。近代五輪と「聖火」一人いの雪の双葉駅を思い出しながら、原発被災者らを切り捨てながら、「復興五輪」を演出して被害者らの悲劇を一大スポーツショービジネスのために利用しつゝぞうとする意味での「完全な形」。こんなオリパラは絶対ムリ。駅頭スタンディング後は「聖火リレー」と五輪災害」トークリレー集会。

鵜飼哲さんは五輪災害下の社会状況を書き連ねた『まつろわぬ者たちの祭り』（インパクト出版会）を上梓したばかり。近代五輪と「聖火」一人いの雪の双葉駅を思い出しながら、原発被災者らを切り捨てながら、「復興五輪」を演出して被害者らの悲劇を一大スポーツショービジネスのために利用しつゝぞうとする意味での「完全な形」。こんなオリパラは絶対ムリ。駅頭スタンディング後は「聖火リレー」と五輪災害」トークリレー集会。

鵜飼哲さんは五輪災害下の社会状況を書き連ねた『まつろわぬ者たちの祭り』（インパクト出版会）を上梓したばかり。近代五輪と「聖火」一人いの雪の双葉駅を思い出しながら、原発被災者らを切り捨てながら、「復興五輪」を演出して被害者らの悲劇を一大スポーツショービジネスのために利用しつゝぞうとする意味での「完全な形」。こんなオリパラは絶対ムリ。駅頭スタンディング後は「聖火リレー」と五輪災害」トークリレー集会。

鵜飼哲さんは五輪災害下の社会状況を書き連ねた『まつろわぬ者たちの祭り』（インパクト出版会）を上梓したばかり。近代五輪と「聖火」一人いの雪の双葉駅を思い出しながら、原発被災者らを切り捨てながら、「復興五輪」を演出して被害者らの悲劇を一大スポーツショービジネスのために利用しつゝぞうとする意味での「完全な形」。こんなオリパラは絶対ムリ。駅頭スタンディング後は「聖火リレー」と五輪災害」トークリレー集会。

レーモのもつ帝国主義的側面と現在の日本を重ね合わせる。『オリンピックの終わりの始まり』（「モンズ）という、予言的なタイトルの著書を昨年出版した谷口源太郎さんは、マネーファーストの一〇〇やJOCの在り方を批判するとともに、アスリートへの批判もわすれない。

翌日は「ビレッジはじめ、原発二〇キロ圏内の警戒区域下にもかかわらず、オリパラと「聖火」リレーのために避難指示が解除されてしまつた浪江町、双葉町、大熊町など のリレーコースを周るフィールド・ワークを行つた。

緊急事態宣言のちょうど一か月前の三月七日、安倍は「復興」を演出するために全線再開となつた常磐線の双葉駅を訪れ上機嫌を装つていた。それから二週間余りたつてやつと五輪延期を宣言。感染拡大防止の決定的時期における安倍、小池、森の延期が閣議決定されたが、私たちの優柔不断がコロナ禍を深刻化させたことは忘れてはなるまい。誰く中止しろ！」を訴えることとした。場所は東京駅中央口（丸の内側）前に集まつた。八五人の参加者と

がら、原子力災害と新型コロナ災害という二つの緊急事態宣言下でどのように反対の声を広めていけるかを考えている。

4・19、4・28—29 反天皇制・反安保行動

例年どおり反天連も呼びかけ団体に加わり、「今こそ問う「安保・沖縄・天皇」4・28—29連続行動実行委員会」を立ち上げた。実行委員会では、四月一九日に予定されていた「立皇嗣の礼」に抗するシンポジウムも準備し、秋篠宮論と皇位繼承論を巡つて議論を交わす予定だったが、三月

に入りコロナ騒ぎで会場は使えなくなり、四月に入ると「立皇嗣の礼」延期説も浮上しシンポは中止。実行委員会による街頭での抗議行動に切替えた。当日五日前に「立皇嗣の礼」の延期が閣議決定されたが、私たちは予定どおり集まり、「延期ではなく中止しろ！」を訴えることとした。駄ヶ谷区民会館も使用できず、会館

の行幸通り。広場のように広い歩道だ。ここは、昨年一月、大嘗祭当日の抗議行動を行つた皇居から一キロ圏内の場所。人通りは少ないがそれでも通行人はいたし、立ち止まつて私たちの行動を見物する人たちもいた。こちらは三十人ほどで警察はどうじゅうこと？

たくさんの参加者がマイクを持つてくれ、充実した一時間のトークリレーとなつた。その後、全員で横断幕やプラカードを掲げ、だだつ広い歩行者道を皇居に向かつて二〇〇メートルほど歩き、皇居のこんもりとした森を見ながら、実行委声明を読み上げ、シユブレヒコールで仕上げた。風を受けながらの気持ちのいい行動だつた。私たちの声は皇居に届いたか？

4月30日

二八日の沖縄デー集会は会場が使えず中止。二九日は反「昭和の日」デモ。集合場所に予定していた千葉県民会館も使用できず、会館

